

J. D. Salinger の初期の短編について (5)

小林 資 忠

(英米文学研究室)

0 . はじめに

前稿¹⁾において、J. D. Salinger の初期の短編の中で、(C)戦時下の人々を扱った作品8編のうち、4編について、各作品に使用されている口語表現を吟味しながら、作品の内容を検討した。本稿では、残りの4編について、同様な手順で登場人物の行動や考え方を考察してみよう。引用の最後の()の中に頁数を示す。

1 . “Once a Week Won’t Kill You” (1944) について

この短編は第2次世界大戦で、主人公 Richard が入隊を控えた1944年3月のある朝、結婚後3年目になる妻 Virginia と別れを惜しみながら語り合っている場面で始まる。Virginia は Richard が騎兵隊に入って、将校になり、文明人のいるロンドンに行けたらいいのにと希望を述べ、そうなればツイードの布地を手に入れることができるだろうと言う。この彼女の考え方は *Nine Stories* に収められた短編 “For Esmé — with Love and Squalor” に登場する「わたし」の妻の母が戦争中にもかかわらず、カシミアの毛糸を求める利己的な言葉²⁾に反映されている。Richard は昨夜言い残した、同居中の叔母 Rena のことに触れて、自分が入隊した後、叔母を週に1回映画に連れて行ってくれるように Virginia に頼む。その後彼が Rena の部屋に別れの挨拶に行くと、彼女は落ち着いて、Thomas E. Cleve, Jr. 中尉宛の紹介状の入った封筒³⁾を Richard に手渡し、その中尉がきっと面倒を見てくれるだろうと助言する。Thomas というのは Rena のかつての恋人で、すでに第1次世界大戦で亡くなっており、Rena の時間はそこで止まっている。彼女は、今は、映画、ラジオ、切手収集を楽しみにして毎日を過ごしている。Virginia のところに戻った Richard は冷えてしまった朝食を前に、彼女に再度、叔母を週に1回映画に連れて行ってくれるように念を押すのである。

1 . 1 . “Once a Week Won’t Kill You” に見られる口語表現について

この短編では、主に夫婦の間で会話が進むので、スピーチレベルはそれほど低くはないが、親しい間柄ということで砕けた表現も多い。その顕著なものを探ってみよう。

1 . 1 . 1 . I mean

この表現は会話文の中で20回使用されており、そのうち18回は Virginia の発話であり、付け

足し、念押しをしながら話を進める彼女の話し振りを特徴づけている。

I mean の後に that 節が来る用法は11例あり、すべての用例で that は省略されている。またその11例中の7例は繰り返し文を含んだり、イタリック体となって、強調された語句や and all, and everything などの表現を含み、全体として強調効果を高めている。I mean が単独で用いられたり、文の前後にコンマが置かれて使用される場合も、その前後の文にイタリック体の語句を含むことが多い。そのいくつかを次に示す。

(1) “What a *horrible* time to start, I mean,” she said. (23)

(2) “I mean, I *will*,” she said. “It’s all so *stinking*. I mean. And all.” (23)

(3) “... I mean you even hate to *talk* to people and everything.” (24)

(4) “Good-by. You won’t need anything. I mean you won’t need anything. I’ll write to you.” (27)

(5) “Do you have enough *time* to lay down like that? I mean.” (24)

次のように、Virginia に3回も発話されると、さすがに Richard もしつこさを感じて、“Neither are you.” と反論してしまう。

(6) “But, Sweetie, I mean she’s [Rena’s] getting *worse* again. I mean she’s so *batty*, it isn’t even *funny*. I mean you’re not in the *house* with her all day.”

“Neither are you,” he said. (24)

1 . 1 . 2 . 軽蔑語法及び誇張表現

a) crazy

この語は形容詞として「正気でない、気が狂った」の意で2回、名詞として呼びかけで「いやな人、変人」の意で1回使用されている。

次の例では、Richard の言葉に続いて、Virginia の発話に crazy が見られる。

(7) “There might have been something else on.”

“Not at this crazy time.”

The young man [Richard] blew a faulty smoke ring⁴⁾ at the ceiling. (23) (「(ラジオで)他に何かやってるかもしれんよ。」「こんな気違いみたいな(早朝の)時間には何もやってないわ。」その若い男は天井を目がけて不完全な(タバコの)煙の輪を吹きつけた。)

(8) “Of *course* I’ll take her, you crazy. I only meant — ” (24) (「もちろん叔母さんを(映画に)連れて行くわよ、あなたっていやな人ね。私はただ」)

(9) “Now, Aunt Rena, I asked you to stop taking those crazy exercises. I mean you’ll strain yourself. I mean there’s no sense to it.” (25)

b) lazy

この語は「怠惰な、無精な」の意で1回使用されているが、Rena がふつうは自分より遅く起きているにちがいないと思った Richard に対して親しみを込めて、「お寝坊さん」と呼びかけた場面である。

(10) She wore a charming beige morning gown, and on her feet a pair of extremely dirty white gym shoes. “Well, Dickie Camson,” she [Rena] said. “How did you ever get up so early, you lazy boy?” (25)

c) dumb

この語は「ばかな、まぬけな」の意で、Richard が Rena との対話で 1 回使用している。

- (11) “That’s about all I remember. Just dumb stuff.” (26) (「僕が覚えているのはそれだけなんですよ。全くばかげたことですけどね。」)

d) mad

この語は誇張表現として、「...に夢中になって、のぼせ上がって」の意で Virginia によって 1 回使用されている。

- (12) “I hope they put you in the Calvary. The Calvary’s lovely,” she [Virginia] said.
“I’m mad about those little sword do-hickies they wear on their collars. ...” (24)

e) idiotically

この語は Richard の父のことを回想しながら述べる Rena の言葉に 1 回見られるが、自分の肉親に対する親密感や深い愛情が漂っているように感じられる。

- (13) “Your father couldn’t sit still, like a human being, in a room if your mother had left it. He’d just nod idiotically when someone talked to him, keeping those peculiar little eyes of his on the door she’d left by. ...” (26)

1 . 1 . 3 . and all, and everything

この短編では余剰表現の and all が 6 例、and everything が 1 例見られ、and all の 6 例中 1 例は単独で強調を表して「全く、実際」の意で用いられている。

- (14) “I mean, I will,” she [Virginia] said. “It’s all so stinking. I mean. And all.” (23)
(「ほんとに寂しいわ」と彼女は言った。「実にいやだわ。ほんとにもう全く。」)

- (15) “... And you love to ride and all.” (24) [Virginia の言葉] (「...それに馬に乗るのなんかすきでしょう。」(24))

- (16) “... I mean you’ve heard it on the radio and all, haven’t you?” (26) [Richard の言葉]

- (17) “... He’ll look after you, till you get settled and all.” (27) [Rena の言葉] (「あなたがちゃんと落ち着くまで、彼は面倒を見てくれますよ。」)

- (18) “Sweetie. Everything’s cold. Your eggs and all.” (27) [Virginia の言葉] (「ねえ。みんな冷えちゃったわ。卵やなんか。」)

- (19) “... I mean you even hate to talk to people and everything.” (24) [Virginia の言葉] (「...ほんとに人に話すのなんかもいやでしょう。」)

これらの表現はイタリック体で強調された語句や、I mean のような余剰表現を伴うことが多い。

1 . 1 . 4 . or something, or anything

この短編では標題の余剰表現は 3 例見られ、イタリック体で強調された語句や、強調するために使用された副詞(句)を伴っている。また or something は通例肯定文で用いられるが、否定文や疑問文にも見られる。一方 or anything は通例疑問文、否定文、条件文で使用される。

- (20) “...I mean you know how miserable you’ll be just being a private or something. ...” (24) [Virginia の言葉] (「...ほんとに兵卒かなんかにすぎないならどんなにみじめか分かるでしょう。...」)

- (21) “And besides, she [Rena] doesn’t ever leave her rooms unless I take her out somewhere or something.” (24) [Richard の言葉]

(22) "... She [Rena] isn't young or anything any more." (24) [Richard の言葉]

1 . 1 . 5 . ole

この語は《米略式》で old の意味であり、ol', ol' とも綴られる。ここでは Virginia が Richard に対して親しみを込めて用いた発話に見られる。

(23) "Give us a teeny kiss first," she said. "You ole soldier boy." (24)

1 . 1 . 6 . kiddo

この表現は Richard が Rena に親しく呼びかけたもので、"an elaboration of the colloquial kid"⁵⁾とも言われている。

(24) "Virginia'll come to see you a lot, Kiddo," he told her. (26)

1 . 1 . 7 . Repetition について

繰り返しについては、顕著なものを2例挙げておく。最初の例は、入隊を前にした Richard が Rena に別れの挨拶をしている場面であり、2度目の発話に I mean が付加されて全体的に強調された表現になっている点に注意したい。

(25) "I have to go now, Aunt," the young man said. "Good-by. You won't need anything. I mean you won't need anything. I'll write to you." (27)

次の例はこの短編の表題にもなっている表現で、Richard が Rena のことを気遣って、Virginia に1週間に1度楽しみのために、Rena を映画に連れて行ってくれるようにしきりに頼んでいる場面である。1週間に1度ぐらいだったら、それほど負担にもならないだろうと Richard は言うのである。

(26) "Virginia. Listen. I didn't get a chance to finish last night," he said. "I want you to take her to the movies once a week."

"The movies?"

"It won't kill you," he said. "Once a week won't kill you."

"No, of *course* not, Sweetie, but — "

"No buts," he said. "Once a week won't kill you."

"Of *course* I'll take her, you *crazy*. I only meant — " ...

"Virginia, once a week won't kill you. I'm not kidding." (24)

この短編の最後の場面でも Richard は Virginia に同様な発話をして、上述の依頼を確認している。

(27) "You can take her to the movies once a week," he said. "It won't kill you."

"Who said it *would*? Did I ever once say it *would*?"

"No." He walked into the dining room. (27)

2 . "A Boy in France" (1945) について

この短編の主人公は "the boy" と表されている青年兵であるが、"Last Day of the Last Furlough" に登場した Babe であることが、この青年兵の妹 Matilda からの手紙⁶⁾がこの短編に折り込まれることによって、暗示されている。フランス戦線で悪戦苦闘しているこの青年兵は豚肉と卵黄の入った缶詰めを半分ほど食べると、雨で濡れた地面に疲れた体を横たえ、ひとときの眠りに落ちる。目を覚ました時はもう暗くなりかけていたが、彼には生き延びるために仮眠の場

所を探す仕事が残っていた。自分でタコツボを掘るにはあまりに疲労し過ぎていたので、他の兵隊が掘ったタコツボを利用しようと探し始める。途中で戦友の Hurkin や Eeves に出会うけれど、2人とも懸命に穴掘りをしている。ふと目にした、ドイツ兵が掘ったと思われるタコツボには、すでに米兵の軍服が畳んで置かれており、先を越された彼はがっかりする。さらに進むと、同じく別のドイツ兵が掘った穴が見つかり、血のついた毛布が穴底に置かれていたので、それを取り除いて、穴の中を整え、自分の毛布を降ろし、身体を穴に滑り込ませた。赤アリに足をかまれて痛い思いをしたり、さらに、その日の朝に指の爪が1枚はがれて、ずきずきする痛みを耐えながら、彼はすてきな娘と過ごした楽しい時間を回想したり、切り抜いた新聞のゴシップ記事を読んだりして気分を紛らす。最後に、もう30数回も目を通した妹からの手紙をポケットから取り出し、また読み始める。彼は妹の優しい心遣いを感じながら、手紙をポケットに戻して、心地よい眠りに入るのである。

2.1. “A Boy in France” に見られる口語表現について

この短編は主人公 Babe の回想場面、新聞の切り抜き記事及び妹から Babe に宛てた手紙から構成されているので、会話表現はほとんどなく、従って口語表現も少ないが、いくつか見られるので検討しておこう。

2.1.1. 軽蔑語法及び誇張表現

a) crazy

この語はすでに1.1.2. で扱ったように「正気でない、気違いみたいな」の意であり、この短編では1回使用され、戦争時の異常さを暗示している。

(28) When he awoke, it was nearly ten o'clock — wartime, crazy time, nobody's time — and the cold, wet French sky had begun to darken. (21)

b) rotten

この語は「不快な、いやな」の意で1回使用され、主人公が戦闘の激しさを経験した、気分の悪くなるような午後に言及している。

(29) And all of a sudden the boy saw a foxhole, a German one, unmistakably vacated by some Kraut during the afternoon, during the long, rotten afternoon. (21)

c) the thirty-oddth time

この語は、主人公が妹から届いた手紙を何度も繰り返して読んだことを誇張して表現するのに使用されたものである。

(30) All of a sudden, and hurriedly, the boy took a soiled, unrecent envelope from his pocket. Quickly he extracted the letter from inside it and began to reread it for the thirty-oddth time: ... (92)

2.1.2. honest-to-goodness

この表現は honest-to-God とも言い、強調に用いられる “honest to goodness [God]” (本当に、まったく、誓って) を形容詞として使用したもので、「本物の、真実の、純粹の」の意を表す。また OALD⁶ には見出し語として、[only before noun] (approving) simple and good” と定義され、限定的に、ほめて使われることが示されている。

(31) “Well,” said the Beauty to the Beast, “when I was on the train, I decided that all I really wanted in New York was a date with a real, honest-to-goodness G.I.! And

what do you suppose happened? The very first afternoon I was here, right in the lobby of the Waldorf I bumped square into Bubby Beamis! ..." (92)

2 . 1 . 3 . or anything; and everything

この表現は 1 . 1 . 3 , 1 . 1 . 4 でも扱ったが, この短編では余剰表現の or anything が if 節と否定文にそれぞれ 1 例ずつ, and everything が肯定文に 1 例見られるだけである。

(32) The boy said to Eeves, "Wake me if anything gets hot or anything," and Eeves replied, "How'll I know where you're gonna be at?" and the boy told him, "I'll holler when I get there." (21)

次の 2 例は Matilda の手紙の中に見られる。

(33) I [Matilda] gave them [=the boy's books] to her [Jackie] because she said she would not bend the pages or anything. Mama told her she smokes to [=too] much, and she is going to quit. (92)

(34) Brother Teemers went in the store to get Mr. Ollinger to fix his bike and Mr. Ollinger was dead behind the counter. Brother Teemers ran crying all the way to the court house and Mr. Teemers was busy talking to the jury and everything. (92)

2 . 1 . 4 . 強調語法

この短編では damn が 1 例見られる。この語は damned と同様に, 語調を強めるだけで, その語自体はほとんど意味を持たないことが多いが, 時に非難や嫌悪の含みを残していることもある。⁷⁾

(35) *I won't dig in tonight*, the boy thought, walking on. *I won't struggle and dig and chop with that damn little entrenching tool tonight.* (21) (その青年は, ずっと歩きながら, 今夜はもう掘りたくないと思った。今夜はあのむちゃくちゃに小さい塹壕掘り道具であくせく掘ったり, 切り開いたりはしたくない。)

2 . 1 . 5 . 誤った綴り

10歳の Matilda の手紙の中で, (33)に見られる too の代わりに to を用いた誤りの他に, 綴りの誤りが 2 例と句読法の誤りが 1 例見られるので挙げておく。

(36) Virginia Hope and Barbara Geezer had a fight about something and dont [=don't] sit next to each other on the beach anymore. (92)

(37) Brother Teemers ran right in anyway and yeled Daddy Daddy Mr. Ollinger is dead. [=yelled, "Daddy, Daddy, Mr. Ollinger is dead."] (92)

2 . 1 . 6 . 省略語法

この短編では省略は余り見られず, 接続詞 that の省略や be busy (in) doing 構文の前置詞 in の省略の他に, しばしば見られる次の例があるだけである。

(38) When he was finished, he stepped out of the hole, undid his blanket roll and laid the blankets out flat, one on (the) top of the other. As if they were one, he folded the blankets in half (of) the long way, and then he lifted this bed thing, as though it had some kind of spine to it, over to the hole and lowered it carefully out of sight. (21)

2 . 1 . 7 . Repetition について

主人公の意識の流れの中で、顕著な繰り返しが2例見られるので挙げておきたい。最初の例はたこつぼ壕の中で、はがれた爪が急に生えて元の状態に戻ってほしいという願望と共に、土ぼこりにまみれた衣服や体が一瞬の内に清潔な状態に変わってほしいという、とうていかなえられない主人公の希望が表明されたものである。

(39) “When I take my hand out of this blanket,” he thought, “my nail will be grown back, my hands will be clean. My body will be clean. I’ll have on clean shorts, a clean undershirt, a white shirt. ...” (21) [原文は不定冠詞のない clean undershirt を使用]

次の例は(39)に続く主人公の独白の中で、“... and I’ll bolt the door.”の繰り返しで7回使用された稀な例と考えられる。戦争状態と対峙した、誰にも邪魔されたくない、自分だけの空間をぜひとも確保したいという強い気持ちの現れであろう。I’llの繰り返しにも注意したい。

(40) “... A blue polka-dot tie. A gray suit with a stripe, and I’ll be home, and I’ll bolt the door. I’ll put some coffee on the stove, some records on the phonograph, and I’ll bolt the door. I’ll read my books and I’ll drink the hot coffee and I’ll listen to the music, and I’ll bolt the door. I’ll open the window, I’ll let in a nice, quiet girl — not Frances, not anyone I’ve ever known — and I’ll bolt the door. I’ll ask her to walk a little bit in the room by herself, and I’ll look at her American ankles, and I’ll bolt the door. I’ll ask her to read some Emily Dickinson to me — that one about being chartless — and I’ll ask her to read some William Blake to me — that one about the little lamb who made thee — and I’ll bolt the door. She’ll have an American voice, and she won’t ask me if I have any chewing gum or bonbons, and I’ll bolt the door.” (21)

3 . “This Sandwich Has No Mayonnaise” (1945) について

主人公の Vincent Caulfield 軍曹は Georgia 州の空軍訓練基地に勤務している。土砂降りの雨の夜、彼はトラックで兵隊たちを連れてダンスパーティーに出かけるために、特殊部隊からやって来るはずの中尉を待っていた。中尉の命令では、34人いる兵隊の中から4人を削り、このトラックから降ろさなければならず、Vincent はそのことで苦慮している。中尉がやって来るまで、トラックの中では仲間同士で不平を言い合ったり、世間話に花を咲かせる。その一方で Vincent は弟の Holden が太平洋戦線で行方不明になっていることが気がかりで、Holden や妹の Phoebe と一緒に過ごした日々のが頭から離れない。確かに、一人称の「わたし」で語られる「Vincent の意識の流れと、土砂降りの雨夜の重苦しさと呼応し、現在時制が効果を上げて、臨場感あふれる作品⁸⁾」に仕上がっている。やがて中尉がやって来たので、Vincent はやむなく4人の兵隊に自主的にトラックから降りるように求める。4人目の18歳くらいの青年兵はどうしてもダンスパーティーに行きたいと言うので、中尉が知り合いの女性に電話をかけに雨の中を出かけて行き、Sarah Jane という名の女性をパーティーに呼び出すことに何とか成功する。この短編の表題は Vincent の空想の中でふと彼の頭に浮かんだもので、このトラックはすてきなトラックであり、潜在的な詩でもあるという彼の叫びに基づいている。その時に浮かんだ詩の題名は “Trucks I have Rode in,” “War and Peace,” “This Sandwich Has No Mayonnaise” の3つであ

り、最後のものがこの短編の表題になっている。「マヨネーズのっていないサンドイッチ」は薬味がなくて、味気ないものを暗示していると思われるが、Vincent に課された、気を重くさせる、野暮な仕事もその1つであろう。それと同時に作者が皮肉やユーモアを交えて自分を奮い立たせようとした Vincent の気持ちを表題に託したのかもしれない。

3.1. “This Sandwich Has No Mayonnaise” に見られる口語表現について

この短編では、主人公の Vincent 軍曹を中心に、兵隊同士の対話がしばしば見られ、その中には仲間内の砕けた口語表現も多い。特に Eye Dialect にはその特徴が顕著に出ているので注意したい。

3.1.1. 軽蔑語法

a) crazy

この語は 1.1.2 や 2.1.1. で見られたように、「狂気」を表す語であり、この短編では 3 回使用され、狂気を起こさせる原因に対して登場人物の怒りの気持ちを伴っている。

(41) I am inside the truck, too, sitting on the protection strap, trying to keep out of the crazy Georgia rain, waiting for the lieutenant from Special Services, ... (54)

(42) “... In the wintertime Miami gets too crowded. It used to drive you crazy. ...” (55)

(43) — Where’s my brother? Where’s my brother Holden? What is this missing-in-action stuff? I don’t believe it, I don’t understand it, I don’t believe it. The United States Government is a liar. The Government is lying to me and my family.

I never heard such crazy, liar’s news. (55)

b) nuts

この語は「気が変で、狂って；ばかで」の意で、この短編では 2 回使用されている。

(44) “... My wife don’t even like it when I perspire too much. It’s all right when *she* perspires — that’s different! ... Women. They drive ya nuts.” (147)

(45) “I ain’t hardly seen a plane since I’m down here. My wife thinks I’m flyin’ myself nuts. She writes and tells me I should get outta the Air Corps. ...” (55)

c) dope

この語は Vincent が弟の Holden に言及して「まぬけ、ばか者」の意で 1 回使用しているが、その遠慮のない言い方にかえって親しみの感情が込められているのが察しられる。

(46) He’s [Holden’s] only nineteen years old, my brother is, and the dope can’t reduce a thing to a humor, kill it off with a sarcasm,... (54)

d) idiot

この語は Vincent がパーティーにぜひとも行きたいと思っている連中に「あほうども」と心の中で呼びかけた時に使用されている。全員をパーティーに行かせてやりたいのだが、どうしても 4 人を削らなければならないので、目の前にいる連中に対して何となく気の毒に思う感情もこの語には込められている。

(47) Do they think they’ll have a terrific time at this sticky little dance? Do they think they’re going to hear a fine trumpet take a chorus of “Marie”? What’s the matter with these idiots? What’s the matter with *me*? Why do I want them all to go?

Why do I sort of want to go myself? ... (147)

3.1.2. this [these] here

この短編では that [them] there は見られないが, this [these] here が7例用いられている。不要な here を伴っている一種の強意表現であり, 非標準英語とみなされている。⁹⁾ この表現は名詞の前で, 修飾語句として使用されることが多いが, 独立した主語として this の意味で用いられることもある。

(48) this here veehickle [=vehicle] (54)[2回] / this here hole (55)[2回] / these here lieutenants (55) / these here G. I. dancers (147)

(49) This here is a real pretty truck. (54)

3.1.3. or something, or anything; and all

この短編では標題の余剰表現のうち, or something が4例, or anything が1例, and all が1例見られるが, これらの表現は「言及を前の語句だけに限定せず, ほかにも列挙すべきものがあるとほのめかすことによって, 表現を曖昧に柔らかくする」¹⁰⁾ という機能を持っている。

(50) She's [Fergie's wife's] got me on a B-17 or something. She reads about Clark Gable and she's got me a gunner or something on a bomber. (55)

(51) Fergie looks phlegmatically interested. "Yeah? Ask for Porter, huh? Corporal or something?" (55)

(52) "... In the places it was worth goin', you could hardly get a seat or anything." (55)

(53) "... That's fine, that's fine; that's mighty cheap, with the plugs and all." (149)

3.1.4. those の意の them

アメリカ口語表現では指示形容詞 those の代りに them が用いられることが多いが, この短編でも2例見られる。アイルランド英語や黒人英語でもしばしば使用されている。¹¹⁾

(54) From the front of the truck comes a dynamic and irrefutable observation: "No flying again tonight! Them cadets won't be flyin' again tonight, all right. The eighth day no night flyin'." (55)

(55) ... Fergie turns to me. "You shoulda seen them showers in Mee-ami, Sarge. No kiddin'. You'd never wanna take a bath in your own tub again." (55)

3.1.5. 副詞 like

副詞 like は文頭や文尾に置かれて, 断言を避けるためによく用いられるが, 時に, 文中に置かれて, つなぎの言葉として, ためらいの気持を暗示することもある。この短編では, 次の2例が見られる。

(56) "What a break. To live right near where you're at," says the boy from Valentine Avenue. "If I was only at Mitchel Field, like. Boy. Half hour and I'm home." (56)

(57) The boy turns wildly to the lieutenant.

"I was the first one on it, sir. Honest. This fella in our squadron — this foreign guy, like, that works in the orderly room — he tacked it up and I signed it right off. The first fella." (148)

3.1.6. 間投詞 boy

この語は通例, 年齢に関係なく男性に対する呼びかけ語として使用されると共に, 「まあ, お

や、ほんとに」などの間投詞として使われることも多い。

(58) The lieutenant says, dripping: “Get in. Get in the truck, boy.”

The boy climbs back into the truck and the men quickly make room for him.

(148)

(59) “If I was only at Mitchel Field, like. Boy. Half hour and I’m home.” (56)

(60) “Private,” says Porter — just short of stiffly.

“Boy,” says the kid from Valentine Avenue, looking past my head into the teeming blackness. “Look at it come down!” (55)

3 . 1 . 7 . sort of

この表現も kind of と同様に口語英語ではよく用いられ、「いくぶん、少し」などの意で表現を和らげるのに使用される。この短編では使用が少なく、Vincent の回想場面に見られる次の2例だけであるが、繰り返されて強調された独立用法にも注意したい。

(61) ... Why do I want them all to go? Why do I sort of want to go myself? Sort of

What a joke. You’re aching to go, Caulfield ... (147 - 148)

次は “sort of” が Eye Dialect として “short of” の綴りになっている、比較的稀れな例と思われるので、参考のために挙げておく。

(62) Fergie looks phlegmatically interested. “Yeah? Ask for Porter, huh? Corporal or something?”

“Private,” says Porter — just short of [=sort of] stiffly. (55)

3 . 1 . 8 . I mean

この短編では、会話文で1例だけ使用されており、前の語から言い換えられた類義語を強調する働きをしている。

(63) The man who likes Memphis and Dallas better than Miami speaks up: “I hope all these girls tonight ain’t chicken. I mean kids. They look at me like I was an old guy when they’re chicken.” (147)

3 . 1 . 9 . 誓言・強意表現

次の例はトラックから降ろされそうになった青年が中尉に対して、自分がパーティーに行けるリストの一番最初だったことを主張している場面であり、“Honest” と発話することによって、自分の言葉の真実性を相手に強調しているのである。

(64) The boy turns wildly to the lieutenant.

“I was the first one on it [=the list] sir. Honest. This fella in our squadron — this foreign guy, like, that works in the orderly room — he tacked it up and I signed it right off. The first fella.” (148)

次はパーティーに行くためにみんなが申し込み用紙にサインしたことを、仲間の1人が嫌悪感を抱きながら “Hell” よりは婉曲的な “Heck” を用いて述べたものである。

(65) “C’m on now. Who didn’t sign up?” — C’m on now, who didn’t sign up. I never heard such a gross question in my life.

“Heck, we all signed up, Sarge,” says Valentine Avenue. (147)

3 . 1 . 10 . naa

周知のように、no のアメリカ口語表現として、スピーチ・レベルは低いですが、時に標題の naa

が使用されることがある。この短編でも2例見られるが、省略表現が続いた後に用いられた次の1例を示す。

- (66) “I never saw rain like this,” the boy from Valentine Avenue says. “You ever see it like this, Fergie?”
 “See what?”
 “Rain like this.”
 “Naa.” (56)

3.1.11. this の冠詞的用法

次のいくつかの例に見られる this は冠詞的な用法として使用されており、単に「the を用いるより、this のもつ空間的距離の近さと指示性の強さとを生かして、...相手との距離感をなくし相手の関心を自分に引き寄せる効果がある¹²⁾」と考えられる。

- (67) “Hey, Sarge!” yells the character in the front of the truck. “Let’s get this show on the road! Bring on the dames!”
 “How are the dames, Sarge? They good-lookin’?”
 “I don’t really know what this thing [=show] is tonight,” I say. “Usually they’re pretty nice girls.” (55)

- (68) Where are you, Holden? Never mind this Missing stuff. Stop playing around. Show up. Show up somewhere. Hear me? Will you do that for me? (149)

3.1.12. buddy

アメリカ口語表現のうちで、親しい人への呼びかけ語に buddy がよく知られている。この語は時におどかしや怒りが含意されることもあるが、その場合にも、同時に親しみが込められて使用されることも多い。

- (69) Near The Bronx, but it isn’t in it. Let’s remember that. Let’s not go around telling people they live in The Bronx when in the first place they don’t live there, they live in Manhattan. Let’s use our heads, buddy. Let’s get on the ball, buddy. (55)

次は中尉がこの語を女性との電話中に使用した例である。

- (70) “Mama?” the lieutenant says into the mouthpiece. “Buddy ... I’m fine ... Yes, mama. Yes, mama. I’m fixin’ to be. Maybe Sunday if I get off like they said. Mama, is Sara Jane home? ... Well, how ‘bout lettin’ me talk to her? ...” (149)

この短編では、アメリカ口語英語で、名前の不明な男性に対してよく用いられる呼びかけ語 Mac も1例見られるので次に示す。

- (71) Fergie is not interested. The comparison is not apt. The comparison, I might and will say, stinks, Mac. (55)

3.1.13. 動詞変化の単純化

この短編では、直説法で複数主語に対して was が使用されている例が1例見られるが、今日では俗語・方言的であるとされている。¹³⁾

- (72) “We lived in a hotel,” the boy from Valentine Avenue says. “Before the War you probly [=probably] paid five, six dollars a day for the hotel we was at. *One room.*” (55)

次の they's は there's の意で特にアメリカ南部に多く見られる表現である。¹⁴⁾

(73) "... Only this is what I want to tell you: they's one boy too many" (149)

次の例は過去形が過去分詞の代りに使われているもので、この現象は古語や方言に多いと言われている。¹⁵⁾

(74) You can call it, "Trucks I Have Rode In," or "War and Peace," or "This Sandwich Has No Mayonnaise." Keep it simple. (55)

アメリカ口語英語では、単純化語法は ain't にも見られ、have [has] not, is [are] not, am not の5つの役割を ain't が肩代わりしている。この短編では、have not, are not, is not, am not が ain't によって置き換えられている。また ain't を含む文が全体で2重否定になって、否定が強調されることも多く見られる。

(75) Fergie looks at me. "Ain'tya [=Haven't you] never been there, Sarge?" (55)

(76) "You're alive, ain'tcha [=aren't you]" the character in the front of the truck yells at Fergie. (55)

(77) "I ain't [=haven't] hardly seen a plane since I'm down here. ...I ain't [=haven't] got the heart to tell her all I do is empty out stuff." (55)

(78) "I hope all these girls tonight ain't [=aren't] chicken. I mean kids. ..." (147)

(79) He says into the mouthpiece, "I ain't [=am not] askin' you [=your] girl. I'm tel-lin' you. ..." (149)

(80) "... Near The Bronx, but it ain't [=isn't] in it. It's still Manhattan." (55)

3 . 1 . 14 . to 不定詞の to の同化現象

この現象は口語英語の顕著な特徴であり、この短編では wanna が4例、wantsa が1例、gotta が1例見られる。

(81) "... You'd never wanna [=want to] take a bath in your own tub again." (55)

(82) "Tell the Sarge about Mee-ami. He wantsa [=wants to] know if it's any good or not. Tell 'im." (55)

(83) "Gotta [=Got to] wait for the lieutenant," I tell him. I feel my elbow getting wet and bring it in out of the downpour. (54)

3 . 1 . 15 . 助動詞 have の同化現象

この現象は have の音韻消失現象 /həv/ → /əv/ → /ə/ の過程に起こり、その後、残った /ə/ が前の子音に同化したものである。最後の文にも、to 不定詞の to の同化現象で生じた "wanna" が使用されている。

(84) "..., but before he could continue Fergie turns to me. "You shoulda [=should have] seen them showers in Mee-ami, Sarge. No kiddin'. You'd never wanna take a bath in your own tub again." (55)

3 . 1 . 16 . 前置詞 of の同化現象

この現象は前置詞 of が弱音化する /əv/ → /ə/ の過程で起こり、その後、残った /ə/ が前の子音に同化したものである。この短編では、"outta," "lotsa," "kinda" が1例ずつ見られる。

(85) "... The soap was free in the hotel. Any kinda [=kind of] soap you wanted. Not G. I." (55) [Fergie の言葉]

(86) "...She [Fergie's wife] writes and tells me I should get outta [=out of] the Air

Corps. ..." (55) [Fergie の言葉]

- (87) "... I been lotsa [=lots of] times. Maxwell Field. Everywhere." (55) [Memphis と Dallas の町が好きな男の言葉] (「...俺も何回も行ったことがあるんだ。マックスウェル基地や、いろんな所へさ。」)

3.1.17.2 重主語

この用法は名詞主語のコンマの直後に、不要な代名詞を追加して用いたもので古い用法のなごりである。¹⁶⁾ 代名詞を繰り返して、主語を強調する余剰表現となっており、この短編では1例見られるだけである。

- (88) "I work at Dispatchers. These here lieutenants, they take cross-countries about oncet a month and sometimes they don't already have a passenger in the back. ..." (55) [Memphis と Dallas の町が好きな男の言葉]

3.1.18. oncet

アメリカ南部方言では、歯茎継続音で終る wish, once などの語は後に閉鎖音/t/を付加して、/wɪʃt/、/wʌnst/のように発音され、wish_t, oncet [onct, wunst] などと綴られる。¹⁷⁾ この短編では次の1例が見られる。

- (89) "... These here lieutenants, they take cross-countries about oncet a month and" (55)

3.1.19. Eye Dialect

視覚方言は「話者が非標準的な発音をしていることを視覚的に表そうとしたもの」¹⁸⁾で、スピーチ・レベルが低いほど、使用が多くなる傾向がある。この短編では、互いに気心の知れた軍隊の仲間同士の対話が多いので、視覚方言も多彩になっている。

(A) 標準綴りの“r”が“h”に変化したもの；標準綴りの“er”が“uh”, “eh”, “ah”に変化したもの

- a) pahtnuh (3回): Choose yo' pahtnuhs [=partners] folks! (54, 147)
- b) pahty (1回): "... I got these boys heah for one of those pahties [=parties] Miz Jackson gives. ..." (149)
- c) chahge (1回): "You in chahge [=charge] heah, Sahgeant?" (147)
- d) ovuh (1回): "... Now I want you to drive ovuh [=over] to Miz Jackson's right quick — heah? ..." (149)
- e) oveh (1回): "Sarah Jane, listen. I want you to drive oveh [=over] to Miz Jackson's t'night" (149) [この短編には見られないが、ovah の綴りもある。¹⁹⁾]
- f) orduh (1回): "I called up every orderly room myself," he reveals for my benefit, "and distinctly gave orduhs [=orders] that only fahve men from each squadron were supposed to go." (147)
- g) Sahgeant (5回): "Sorry, soldier," says the lieutenant. "— Ready, Sahgeant [=Sergeant]?" (148)

(B) 標準綴りの“re”が“ah”に変化したもの

- a) heah (5回): "How many men in heah [=here]?"
"I'd better take a re-count, sir." (147)

- b) wheah (1 回): The lieutenant turns to me and asks, “Sahgeant, wheah [=where] can I use a telephone around heah?” (148)
- (C) 標準綴りの “i” が “ah” に変化したもの ; 標準綴り “i” が “ee” に変化したもの
- a) fahve (1 回): “... only fahve [=five] men from each squadron were supposed to go.” (147)
- b) Mee-ami (3 回): “Four months. I come in through Dix and then they ship me down to Mee-ami [=Miami] Ever been in Mee-ami?” (55)
- (D) 標準綴りの “or” が “aw” に変化したもの
- mawnin’ (1 回): “Well, Miz Jackson called me this mawnin’ [=morning] and asked for just thi’ty men even. ...” (147)
- (E) 標準綴りの “rs” が “iz” に変化したもの
- Miz (4 回): “... I want you to drive oveh to Miz [=Mrs.] Jackson’s t’night. ...” (149) [この短編には見られないが、Miz は Mis’/miz/とも綴られる。]

その他に、gimme [=give me] (55) が 1 回、sergeant の《略式》で呼びかけ語として Sarge (55, 56, 147) が 5 回、“r” の省略された thi’ty [=thirty] (147) が 1 回、“y” の追加された Theayter/θi:itər/ [=Theater] (147) が 1 回、“ab” の省略された probly [=probably] (55) が 1 回、lieutenant の《米俗》として loey/lui/²⁰ (56) が 1 回、“e” が “ee” になり、“k” が加わった veehickle [=vehicle] (54) が 1 回散見される。

3 . 1 . 20 . The thing is, ...

標題の表現は文法的には懸垂節 (dangling clause) と考えられるが、機能的には「聞き手の注意を喚起する副詞節の一種」²¹⁾ とみなして良いだろう。口語英語を主体にした作品によく見られる、“What I did was, ...”, “The trouble is, ...” などと同類の表現である。

- (90) “Heck, we all signed up, Sarge,” says Valentine Avenue. “The thing is, around seven guys signed up in my squadron.” (147) (「くそ、軍曹どの、俺たちみんなサインしましたよ」とヴァレンタイン街から来た若者が言った。「実は、自分の中隊ではほぼ7人もサインしたんですよ。」)

3 . 1 . 21, that’s why.

この表現は、“..., that’s all.”, “..., is all.”, “..., that’s what I’ll do.” などと同じ言い方であり、一種の強調構文である。

- (91) I can’t forget anything that’s good, that’s why. (149) (楽しかったことは忘れられないんだ、そのためなのさ。)

3 . 1 . 22 . 省略語法

すでにこの語法は 2 . 1 . 6 . で扱ったが、この短編でもいくつか見られるので、主なものを観察しておこう。軍隊の仲間同士で用いられた “yo’” [=your] (147), “C’mon” [=Come on] (148), “y’ll” [=you all] (149), “y’all” [=you all] (147), “t’night” [=tonight] (149), “How’s” [=How is] (149), “So’m I!” [=So am I!] (55), “rainin’” [=raining] (149), “fixin’” [=fixing] (149) などのような語の一部や句として確立した省略の他に、次のような統語的な省略もある。

(A) 動詞 be の省略

- (92) “How are the dames, Sarge? They (are) good-lookin’?” (55)

- (93) “You (are) in chahge heah, Sahgeant?” (147)
- (94) “Where (are) ya from, Sarge?” the boy asks me. (55)
- (B) 助動詞 did の省略
- (95) “(Did) You ever see it like this, Fergie?” (56)
- (C) 助動詞 have の省略
- (96) “(Have) Y’all [=You all] ever been to Atlanta?” (147)
- (97) “... I (have) been lotsa times. ...” (55)
- (D) I’ve の省略
- (98) “(I’ve) Gotta wait for the lieutenant,” I tell him. (54)
- (E) Do you の省略
- (99) “(Do you) Know where that is?” (55)
- (F) Did I の省略
- (100) “You ever see it like this, Fergie?”
“(Did I) See what?”
“Rain like this.” (56)
- (G) Have you の省略
- (101) “(Have you) Ever been in Mee-ami?” (55)
- (H) 代名詞 it の省略
- (102) “From my house,” he informs intensely, “to the Paramount Theayter (it) takes exactly forty-four minutes by subway. ...” (147)
- (I) it is/Is it の省略
- (103) Fergie looks at me. “Ain’tya never been there, Sarge?” — You poor miserable sap of a sergeant.
“No. (Is it) Pretty good down there?” I manage to ask.
“What a town (it is),” says Fergie softly. (55)
- (104) Why do I want them all to go? Why do I sort of want to go myself? Sort of! What a joke (it is) You’re aching to go, Caulfield. ... (147 - 148)
- (J) are there/there’s の省略
- (105) “How many men (are there) in heah?” (147)
- (106) “No flying again tonight! Them cadets won’t be flyin’ again tonight, all right. (On) The eighth day (there’s) no night flyin’.” (55)

3 . 1 . 23 . Repetition について

繰り返しについては、1 . 1 . 7 . , 2 . 1 . 7 . で扱ったが、この短編でもいくつか見られるので触れておこう。2回の繰り返し、“Any stuff. Any stuff that get filled up.” (55) や “... It sure is pretty bad. It sure is. ...” (149) などはしばしば使用されているので、3回以上の繰り返しについて観察しておく。

この短編の主人公である Vincent 軍曹は弟 Holden が太平洋戦線で行方不明になっており、そのことが頭にこびりついて離れないようで、何度も弟のことを思い出して悩んでいるが、次の例では “missing” の繰り返しによって、その悩みが暗示されている。

- (107) Where’s my brother? Where’s my brother Holden? What is this missing-in-action

stuff? I don't believe it, I don't uderstand it, I don't believe it. ...Missing. Missing, missing, missing. Lies! ... He's never been missing before. He's one of the least missing boys in the world. ... Missing! Is that missing? (55)

- (108) And now they're trying to tell me he's missing. Missing. Who's missing? Not him. He's at the World's Fair. I know just where to find him. I know exactly where he is. Phoebe knows, too. ...What is this missing, missing, missing stuff? (147)

次の例は Fergie がダンス・パーティーに行った時に、汗をかかないように是非とも気をつけようとしきりにそのことを強調している場面である。

- (109) “I watch out that I don't perspire too much,” says Fergie. “These here G.I. dances are really hot. The women don't like it if you perspire too much. My wife don't even like it when I perspire too much. It's all right when *she* perspires — that's different! ... Women. They drive ya nuts.” (147) [My wife don't は口語英語の特徴の 1 つである単純化語法である。]

次はこの短編の最後の部分であり、Vincent が主に Holden の過去の行動を思い返して、その回想の中で Holden がしようとする行動をやめさせようと命令している場面である。

- (110) Stop kidding around. Stop letting people think you're Missing. Stop wearing my robe to the beach. Stop taking the shots on my side of the court. Stop whistling. Sit up to the table. ... (149)

4 . “The Stranger” (1945) について

この短編では主人公の Babe Gladwaller が登場し、第 2 次世界大戦終了後、除隊して 1 週間後に、友人 Vincent Caulfield の死の現場状況を、Vincent のかつての女友達で、今は Mrs. Polk になっている Helen に伝えるために、New York の彼女のアパートに出かけて行くところから始まる。Babe は妹の Mattie と一緒にこの町で食事をしたり、映画を見たりするついでに Mrs. Polk のアパートに立ち寄ったと言い、Vincent と Mrs. Polk との関係やお互いが別れることになった原因などについてもそれとなく彼女に尋ねてみる。さらに、Vincent が書いた詩を彼女に渡しなが、Babe は彼女の現在の心境を推量してもみる。2 人の話が進むうちに、お互いの心もかなり打ち解けて、Babe の帰りぎわには、Mrs. Polk も、彼に女の子を紹介するから、夕食にでもこのアパートに来るようにと招待の言葉を口にするまでになっている。アパートを出て、妹と歩道を歩きながら、Babe は死と隣り合わせにいた自分の戦争体験といきいきした平和な町の様子を比べながら、生の充実感に浸るのであった。Babe が妹と一緒にくつろいで歩いているこの場面は、*The Catcher in the Rye* に見られる Holden と Phoebe が公園を歩きながら語り合うシーンを彷彿させる光景である。²²⁾

4 . 1 . “The Stranger” に見られる口語表現について

この短編では、兄と妹及び Vincent のかつての恋人であった Mrs. Polk との会話を中心とするのでスピーチレベルはそれほど低くない。すでに言及した表現も多いのでざっと概観してみよう。

4.1.1. 輕蔑語法・誇張表現

a) crazy

この語は 1.1.2., 2.1.1., 3.1.1. で観察したように、基本的に「狂気」を表す語であるが、この短編では、物を修飾する用法と人が「人・物に夢中になる」意を表す用法の 2 例が見られる。

(111) Ah, but over the crazy artificial fireplace there were some fine books. (18) (ああ、でも、そのひびの入った不自然な壁炉の上には、何冊かの立派な本があった。)

(112) “That the little one, the younger one he was so crazy about?” (77)

b) moron

この語は「ばか、まぬけ」を意味するが、この短編では、比喩的に使用されてひどく笑うことを表している。

(113) Hey! Maybe it wasn't too late to laugh like a moron, lie and leave. (18)

c) dope

この語は Mattie が同じクラスの女の子のお父さんに言及して述べたもので、親しみが暗示されている。

(114) “Roberta Cochran. She's in my class. She's a dancer. Her father thinks he's a funny guy. I was over at her house and he tries to make a lot of wisecracks. He's a dope.” (77)

d) lousy

この語は「ひどい、がまんのできない、みじめな」などの不快感を表す時によく用いられる。第一例では Vincent が迫撃砲で亡くなった時に、彼のそばにたき火が燃やされており、それが砲撃の目印になってしまったことが示唆されている。

(115) “... The last thing he [Vincent] said was about one of us was going to have to get some wood for the lousy fire — preferably one of the younger men, he said — you know how he talked.” (77)

次の例では、Babe が Mrs. Polk に Vincent の死亡を知らせに来た時のどうしようもない気持ちが含まれている。

(116) “... I'm sorry I have to be a stranger with hay fever and on my way to lunch and a matinee. It seems lousy. Everything seems lousy. I didn't think it would be any good, but I came anyway. ...” (77)

e) dirty

この語も不快感を表す時にしばしば用いられる。この短編では “a patch of dirty white adhesive tape” (18), “that dirty old building” (18) の他に Babe がこの時に罹っていた花粉症に言及する場合に使用されている。Babe は Mrs. Polk に深刻な話をするためにここにやって来たのだが、花粉症のためにくしゃみがでたり、鼻水が出たりして、自分の言いたいことが相手に十分に伝わっていないのではないかと思い、いたたまれない気持ちに責めさいなまれているのである。

(117) He was very afraid now, that he had told Vincent's girl too much too coldly. The hay fever, the dirty hay fever, certainly was no help. (77)

f) idiot

この語は Mrs. Polk が雇っている女中が自分の訪問を主人になかなか取り次いでくれないので、Babe が心の中で腹を立てて発した言葉に見られるものである。

(118) The young man said, "Mrs. Polk." He had told her four times over the squawky house phone whom he wanted to see.

He should have come on a day when there wouldn't be any idiots to answer house phones and doors. (18)

g) a dozen times

この表現は Babe が何度もくしゃみをするので、その回数を誇張して表すために用いられたものである。

(119) Babe uncrossed his legs, briefly squeezed his forehead with the heels of his hands, then he sneezed about a dozen times. (77)

h) to kill her

この表現はアパートを探し回ってたびれて、もうこれ以上歩けなくなった新婚夫婦の花嫁に言及した場面で使用された誇張表現である。動詞 kill を「痛めつける、ひどい目にあわせる」の意で使うのはアイルランド英語起源とされている。²³⁾

(120) It was an ugly, expensive little New York apartment of the kind which seems to rent mostly to newly married couples — possibly because the bride's feet began to kill her at the last renting agent, or because she loves to distraction the way her new husband wears his wrist watch. (18)

4 . 1 . 2 . 間投詞 hey

この語は注意を喚起したり、驚き、喜び、当惑などを表すのに用いられ、“hi” よりもさらに砕けた感じがするので、通例その使用はごく親しい間柄に限定されている。次の例は Babe が頭の中で Mrs. Polk のアパートに来たことを後悔し、そのことを読者に知ってもらうために使用したものである。

(121) Hey! Maybe it wasn't too late to laugh like a moron, lie and leave. (18)

次の2例は Mrs. Polk の発話²⁴⁾に見られる。初対面の時からこの表現を使い、さらに、彼女が自分の部屋に Babe と Mattie をわざわざ案内しているところからもわかるように、彼女は2人に対してより一層親しく接しようとしているのである。

(122) "Hey," she said. "I'm sorry to keep you waiting. I'm Mrs. Polk. ..." (18)

(123) She [Mrs. Polk] looked fine. She probably could have lighted up a cigar and looked fine.

"Hey," she said, quietly for her; she was a shouter. "This room is dark as glop. Let's go in my room." She turned around and started to lead the way. (77)

4 . 1 . 3 . kiddo

この表現は 1 . 1 . 6 . で扱ったように、相手に親しく呼びかける場合に使用され、この短編でも Babe が Mattie に親愛の気持ちを込めて、彼女の肩を軽くたたきながら呼びかけている場面で用いられている。

(124) "I can eat with chopsticks," Mattie said. "This guy showed me. Vera Weber's father. I'll show you."

The sun was full warm on Babe's pale face. "Kiddo," he said to Mattie, tapping

her on the shoulder, “that’s something I’ll have to see.” (77)

4. 1. 4. 誓言・間投詞・強意表現

次の例の gee は Jesus/dʒi:zəs/の「第一音節だけを残した婉曲語」²⁵⁾であり、この短編では、Mrs. Polk と Mattie のそれぞれの発話に見られ、彼女たちの驚きや興味・関心を表すのに使用されている。

(125) ... “I got out last week,” he said. “Gee, that’s swell.”

She didn’t care much one way or the other. Why should she? So Babe just nodded, and said, “You, uh ... You know Vincent’s — you know he was killed, don’t you?”

“Yes.” (77)

(126) Mattie spoke up, telling Vincent’s girl: “He [Vincent] was a witty guy. He was at our house. Gee!” (77)

次の例の Mrs. Polk の発話に見られる “Oh, Lord.” は「驚き、当惑」を表しているが、時には、「哀れみ」や「得意、上機嫌」を含意することもある。²⁶⁾

(127) She [Mrs. Polk] looked at Babe. “Oh, Lord! Miss Beebers! He called me Miss Beebers!” (77)

次は damn を使った強意表現で、口語英語では “not give a damn” がよく知られているが、この短編では “not worth a damn” が用いられている。Babe が Mrs. Polk の居間でレコードを聞きながら、楽しかった時代を回想して、物思いにふけている場面である。

(128) ... : the years when no one who could dance worth a damn had ever heard of Cherbourg or Saint-Lô or Hürtgen Forest or Luxembourg. (18) (...まったくダンスのできない人がシェルブールやサンローやヒュルトゲンの森やルクセンブルグの名を聞いたことがあった時代。)

最後に、Babe が回想場面で仲間に対する呼びかけに用いた “buddy” を挙げておこう。この語は 3. 1. 12. でも扱ったように、親しい間柄で使用される呼びかけ語であり、「状況によっては相手を見下した感じになり、場合によっては脅威」²⁷⁾を感じさせることにもなる。

(129) Get your sight picture on the nearest, biggest lie. That’s why you’re back, that’s why you were lucky. Don’t let anybody good down. Fire! Fire, buddy! Now! (77)

4. 1. 5. 造語的表現

この短編では、Salinger の作品によく見られるハイフンを利用した造語的表現が 2 例と動詞に “-y” を付加して形容詞に変形したものが 1 例用いられている。²⁸⁾ 最初の 2 例は英和辞典の見出し語にもなっている “what-d’you-call-it” (あの何とかいうもの) を視覚方言化した “wuddaya-call-it” を使用したものであり、両方とも Mrs. Polk の発話に見られる。

(130) “... But I can’t *stand* looking at that dirty old building across the wuddaya-call-it.” (18)

(131) “I know, but we could have lunch or something and see a show. Wuddaya-call-it can get tickets to anything. Bob. My husband. Or come to dinner.” (77)

上の(131)では Babe と Mattie が Mrs. Polk の夫に今までに一度も会ったことがないので、Mrs. Polk がユーモアを込めてこの表現を使ったものであろう。

次の例は動詞 squawk (<アヒルなどが>(声高に)ぎゃーぎゃー鳴く。)の語尾に “-y” を加

えて造語したもので、電話の音のやかましが巧みに表されている。

(132) The young man [Babe] said, “Mrs. Polk.” He had told her four times over the squawky house phone whom he wanted to see. (18)

4 . 1 . 6 . Eye Dialect

この短編には 4 . 1 . 5 . で扱った “wuddaya” [=what do you] 以外には、視覚方言はほとんど使用されていないが、よく知られた 2 例だけ加えておく。

a) to 不定詞のtoの同化現象： The maid at the apartment door was young and snippy and she had a part-time look about her. “Who’d ya wanna [=want to] see?” she asked the young man hostilely. (18)

b) willにyouが同化したもの： “Listen, Babe,” Vincent’s girl said intensely. “Call me some-time, willya [=will you] Please. I’m in the book.” (77)

4 . 1 . 7 . or something, or anything; and everything

標題の余剰表現は、すでに 1 . 1 . 3 . , 1 . 1 . 4 . , 2 . 1 . 3 . , 3 . 1 . 3 . で扱ったように、これらの句を付け加えることによって、表現を曖昧にし、コミュニケーションを滑らかにする潤滑油のような働きを持っている。この短編では、会話文で、or something が 4 例、or anything が 2 例、and every-thing が 1 例用いられている。

(133) “... I should have telephoned or something.” (77)[Babe の言葉]

(134) He [Babe] thought, and said, “I can’t tell you he [Vincent] was happy or anything when he died. I’m sorry. ...” (77)

(135) “... Some mortar dropped in suddenly — it doesn’t whistle or anything — and it hit Vincent and three of the other men. ...” (77)[Babe の言葉]

(136) “Can we get a cab or something?” he asked Vincent’s girl. (77)[Babe の言葉]

(137) “Hey. Go see some girl dance with a big bubble or something tonight, huh?” (77)[Mrs. Polk の言葉 ; Go see での and の省略はアメリカ口語英語の特徴の 1 つである。]

(138) “I know, but we could have lunch or something and see a show. ...” (77)[Mrs. Polk の言葉]

(139) “... When he’s drunk and everything, he talks to this rabbit. ...” (77)[Mattie の言葉 ; この場合は and all と言っても同じである。]

4 . 1 . 8 . sort of

この表現も 3 . 1 . 7 . で扱ったように、口語英語ではしばしば用いられるが、この短編では独立用法で 1 例見られるだけである。次の例は Babe が Mrs. Polk の質問に答えて、Yes の代わりに使用したもので、「まあね」ぐらいの意味である。

(140) Vincent’s girl said, “What’s a mortar? Like a cannon?”

How could you ever tell what girls were going to say or do? ... “Well. Sort of. The shell drops in without whistling. I’m sorry.” (77)

4 . 1 . 9 . this の冠詞的用法

定冠詞の機能を持つこの用法は、すでに 3 . 1 . 11 . で扱ったように、話し相手との距離感をなくし、相手の興味・関心を自分に引き寄せようとする機能を持つ。

(141) “Mamma said we ought to see that play, Harvey. She said you like Frank Fay.

It's about this man talks to a rabbit. When he's drunk and everything, he talks to this rabbit. Or Oklahoma! Mamma said you'd like Oklahoma!, too. ..." (77)[this man の後に、関係代名詞 who, または that が省略された破格構文となっている。]

- (142) "I can eat with chopsticks," Mattie said. "This guy showed me. Vera Weber's father. I'll show you." (77)

4 . 1 . 10 . I mean

この用法も、すでに 1 . 1 . 1 . , 3 . 1 . 8 . で扱ったように念押し、付け足しをしながら、全体として強調効果を高める働きをしている。この短編では Mrs. Polk の発話に 1 例見られるだけである。彼女が軍隊から戻った Babe に、これから将来に渡って彼がやろうと思っていることを確認しようとしているところである。

- (143) "What are you going to do now?" Vincent's girl almost shouted at him.

"I told you, we're going —"

"I mean now that you're back."

"Oh!" He sneezed. "I don't know. Is there something to do? No, I'm kidding. I'll do something. I'll probably get an M.A. and teach. ..." (77)

4 . 1 . 11 . 省略語法

この語法も、すでに 2 . 1 . 6 . , 3 . 1 . 22 . で扱ったが、この短編でも、接続詞 that の省略や "Go (and) see" の and の省略の他に次の例が見られる。

(A) 動詞 be の省略

- (144) "(Is) That the little one, the younger one he was so crazy about?" (77)[Babe の言葉]

(B) 定冠詞の省略

- (145) "Ow! You're hurting my hand."

He relaxed his grip. "Why do you ask me that?"

"I don't know. Let's sit on (the) top of the bus. An open one." (77)[この省略はイギリス口語英語でも見られるものであるが、on top [atop] the bus になるとアメリカ口語英語に限定されてくると言われている。²⁹⁾]

(C) 代名詞 that の省略

次の表現は、3 . 1 . 21 . でも触れたように、前の叙述を受ける指示代名詞の that が省略されて、"...(,) is all." となったもので、一種の強調構文である。

- (146) "Well," he [Babe] said. "The poem, (that) is all." (77)(「ところで、詩はそれで全部です。」と彼は言った。)

(D) 前置詞の省略

- (147) She didn't care much (in) one way or the other. Why should (not) she (care much) ? So Babe just nodded, and said, "You, uh ... You know Vincent's — you know he was killed, don't you?" (77)

- (148) "I'm all right. Don't be (in) that way. I'm just not used to things yet." (77)
[(147) や (148) では、前置詞 in は省略されるのが普通である。]

- (149) He reached his long arm forward, ... and handed her a mud-dirty G.I. air-mail envelope. It was folded once (in) the short way, and slightly torn. (77)

次の例は省略ではなく、誤植だと思われるが、参考のために、ここに挙げておく。

(150) A fat, apartment-house doorman, cupping a cigarette in his hand, was walking a wire-haired (dog) along the curb between Park and Madison. (77) [脱落した名詞としては “dog” や “(fox) terrier” が考えられる。また全体を “... was walking a wirehair along the curb” とすることもできる。]

4 . 1 . 12 . Repetition について

繰り返しは、すでに 1 . 1 . 7 . , 2 . 1 . 7 . , 3 . 1 . 23 . で扱ったように、人間の注意を呼び起こす効果的な手段であり、これを用いることによって、発話者や語り手の気持ちが強調されることになる。ここでは3回以上の繰り返しに注意しておこう。

次の例は Babe が Mrs. Polk のアパートに来たことを後悔している場面であり、自分が回り道をしないで Mattie をレストランやマチネに連れて行ったり、列車に乗せたりする方が良かったのではとしきりに反省しているところである。

(151) He should have come on a day when there wouldn't be any idiots to answer house phones and doors. He should have come on a day when he didn't feel like gouging his eyes out, to rid himself forever of hay fever. He should have come — he shouldn't have come at all. He should have taken his sister Mattie straight to her beloved, greasy chop suey joint, then straight to a matinee, then straight to the train — without stopping once to take out his messy emotions, without forcing them on strangers. (18)

次は Babe が Mrs. Polk に Vincent の死を知らせた後で、自分の想像の世界に入り込んで、夢想している場面である。

(152) Don't let any civilian leave you, when the story's over, with any comfortable lies. Shoot down all the lies. Don't let Vincent's girl think that Vincent asked for a cigarette before he died. Don't let her think he grinned gamely, or said a few choice last words.

These things didn't happen. ...Don't let Vincent's girl fool herself about Vincent, no matter how much she loved him. ... Don't let anybody good down. (77)

最後の例は Mrs. Polk がどんなに Vincent や彼の家族を愛していたかを Babe に切々と述べているところである。

(153) “It was his [Vincent's] fault. Listen. I loved Vincent. I loved his house and I loved his brothers and I loved his mother and father. I loved everything. Listen, Babe. Vincent didn't believe *anything*. (77)

(注)

1) 小林資忠「J. D. Salinger の初期の短編について(4)」(『愛媛大学教育学部紀要』, 第Ⅱ部 人文・社会科学, 第36巻 第1号, 2003), pp 27 - 48 .

2) *Nine Stories* からその箇所を次に示す。

I then looked through all my pockets, including my raincoat, and finally found a couple of stale letters to reread, one from my wife, telling me how the service at Schrafft's Eighty-eighth Street had fallen off, and one from my mother-in-law, asking me to please send her some cashmere yarn

first chance I got away from “camp.” ____ J. D. Salinger, *Nine Stories* (Boston: Little, Brown and Company, 1953), p. 137.

- 3) Richard は Rena からもらった封筒を細かく 8 つに引き裂いたが、結局は、その処置に困って、自分のズボンのポケットに戻している。

At the lower landing he took the envelope, tore it in halves, quarters, then eighths. He didn't seem to know what to do with the wad, so he jammed it into his trouser pocket. (27)

この場面は “Just Before the War with the Eskimos” in *Nine Stories* の次の箇所にかざされている。主人公の Ginnie が Franklin からもらったサンドイッチの始末に困り、結局それを再び自分のコートのポケットに戻すという箇所である。

Between Third and Lexington, she reached into her coat pocket for her purse and found the sandwich half. She took it out and started to bring her arm down, to drop the sandwich into the street, but instead she put it back into her pocket. ____ *Nine Stories*, pp 81 - 82 .

- 4) この表現も “Down at the Dinghy” in *Nine Stories* の次の箇所に活用されている。

Boo Boo blew a single, faulty smoke-ring at a pane of glass. ____ *Nine Stories*, p. 118 .

- 5) Tony Thorne, *Dictionary of Contemporary Slang* (London: Bloomsbury Publishing Plc, 1997) p 223 .

- 6) この手紙を利用した形式は “For Esmé — with Love and Squalor” に登場する Esmé から X 軍曹に宛てられた手紙に反映されている。

- 7) 藤井健三 『アメリカの口語英語 庶民英語の研究』(東京：研究社，1991)，p. 75 .

- 8) 高橋美穂子 『J. D. サリンジャー論 「ナイン・ストーリーズ」をめぐって』(東京：桐原書店，1995)，p. 54 .

- 9) 小西友七 『アメリカ英語の語法』(東京：研究社，1981)，p. 305 .

- 10) 藤井，前掲書，p. 88 .

- 11) Cf. 藤井，前掲書，p. 274 .

- 12) 小西，前掲書，p. 198 .

- 13) Cf. 藤井，前掲書，pp. 201 - 202 .

- 14) Cf. 小西，前掲書，pp. 46 - 47 .

- 15) Cf. 藤井，前掲書，pp. 204 - 208 .

- 16) 藤井健三 『文学作品に見るアメリカ南部方言の語法』(東京：三修社，1984)，pp. 40 - 42 .

- 17) 藤井，『文学作品に見るアメリカ南部方言の語法』，p. 315 .

- 18) 沢田敬也 『アメリカの文学方言辞典 辞書にない語をひく』(東京：オセアニア出版，1984)，p. 402 .

- 19) 沢田，前掲書，p. 229 .

- 20) この “looney” は “looie, louie” とも綴られる。 ____ Robert T. Chapman (ed.) *American Slang* (Second Edition) (New York: Harper Collins Publishers, Inc., 1998)，p. 321 .

- 21) 藤井，『アメリカの口語英語』，p. 250 .

- 22) Cf. 田中啓史 『サリンジャー イエローページ』(東京：荒地出版社，2000)，p. 34 .

- 23) Cf. 藤井健三 『『ライ麦畑』の英語はどこから来たのか』(『英語青年』，8月号，2003)，p. 26 .

- 24) Mrs. Polk は親しみを込めて，“Hey” をもう 2 回発話しているので、次に挙げておく。

a) “Aren't you in the Army? Hey! Are you out on that new points thing?” (77)

b) “Hey. Go see some girl dance with a big bubble or something tonight, huh?” (77)

- 25) 藤井，『アメリカの口語英語』，p. 188 .

- 26) 藤井，『アメリカの口語英語』，p. 169 .

- 27) 藤井，『アメリカの口語英語』，p. 255 .

- 28) ハイフンを使用した造語には、次のような常識的で簡単な表現もある：“a mud-dirty G.I. air-mail envelope”

Mrs. Polk の言葉には造語的表現がもう 1 例見られるので挙げておく：“His father phoned and told me,” Vincent's girl said; “when it happened. He called me Miss Uhhh. He's known me all my life and he couldn't think of my first name. (He's known) Just that I loved Vincent and that I was Howie Beeber's daughter. He thought we were still engaged, I guess. Vincent and I.” (77)[“Miss Uhhh” は名前がわからない時に出される声 “uh” から造語されている。]

J. D. Salinger の初期の短編について (5)

29) 小西, 前掲書, p 277 / “atop” については *OALD*⁶ で “(especially AmE)(old-fashioned or literary in BrE)” と注記されている。

(2003年10月23日受理)